

# vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

# 10

OCTOBER  
2010

## CONTENTS

水戸室内管弦楽団第80回定期演奏会……………1～3
SELF PORTRAIT
ぐるっぺ・ローゼン……………3
アンサンブル奏……………4
東京芸大同声会茨城支部……………4
最近の公演から&今こそ、シヨスタコ!……………5
インフォメーション……………6



宮本文昭 Photo:林喜代種

## 宮本文昭——指揮者としての今、そしてこれから

### ● 10/9(土)、10(日) 水戸室内管弦楽団第80回定期演奏会

ドイツのフランクフルト放送交響楽団、ケルン放送交響楽団の首席奏者を歴任し、また水戸室内管弦楽団(MCO)のメンバーも務め、さらにジャンルを超えた多彩な演奏活動を繰り広げてきた宮本文昭が、オーボエ奏者としての活動にピリオドを打ってから約3年半。現在は指揮者、プロデューサー、後進の育成と、幅広い音楽活動を行っています。今回は、指揮者として進化を遂げ続ける日々や、初めて指揮を務めるMCO定期演奏会への抱負などを、熱く語ってくれました。

——まずは指揮者としての活動を始めたきっかけについて教えてください。

実はずっと前に、小澤さんが「俺は今考えると、死ぬまでにどれとどれはできて、どれとどれはもう無理かなって考えるんだよね」とおっしゃったことがあるのですが、僕はその時から「その通り」と思っていたんです。僕の場合、オーボエをやめた時からさかのぼって5年前に「さあ何ができるかな」と思った。そして、オーボエはちゃんと吹けるうちにやめたくて2007年3月でやめたわけですが、そうなると戦う武器がない。でも小澤さんに、「あんた指揮やりなさい」と言っていたので…。それまで僕は、指揮者になりたいと思ったことは一度もないんですけどね。

小澤さんからは、オーボエ奏者として最後の年に、僕が東京都交響楽団やサイトウ・キネン・オーケストラを指揮するという時に、レッスンを受けました。「俺の始め方はこうでね、ここは難しいからこうやったらいい。あとはだいたいやって

くれるよ、大丈夫。これみんなほっといてもやるんだよね」という感じで。というのもメンバーは、例えばMCOであれば指揮なしでも演奏しますし、あるいは第1回ヨーロッパ公演のフィレンツェでも演奏中、停電で真っ暗になって、小澤さんが見えなくなっても弾き続けたように、オーケストラが指揮者なしでも演奏するのは普通。けどここはどうしても必要ってところはいなきゃいけない。その時の手の動かし方が大事なので、それはここだということをお話していただいた。それから僕はずっと指揮をさせていただくようになりました。

——今、指揮者としてどんな日々を過ごされていますか？

そうですね、指揮といえば、昔、ケルン室内管弦楽団と一緒にコンチエルトで日本ツアーをやったことがあるんです。その時、指揮者のミュラー＝ブリュールさんに「指揮って難しいですか?」と聞いたら「別に」と言うの。「指揮の勉強したんですか?」と聞いたら「全然していない」と。「じゃあどこで勉強したんですか?」と聞いたら、「そんなの舞台上で勉強するんだよ」と言われた。実際、何回か指揮をさせていただくと、確かにそうなの。結局のところ多くを学べるのは、やっている「その瞬間」。だからいかに臨機応変に対応できるかってことです。「あっそうか!」と思いつつやる。

それから今僕は、いろんな指揮者の方と対談させていただいて、先日でも下野竜也さん(読売

日本交響楽団正指揮者)とお話したのですが、いつもヒントがないかと探しています。アンテナをはって置いて、「これだ!」と思うものを勉強できるのはたまらないですね!ただ、出来ないことを学ぶということは、たくさん恥をかく。だけど「なるほど!」と思うことがある。残された人生で、そんなふうに思えることが日々ちりばめられているというのは、とてもありがたいことです。例えばオケのリハーサルをやっている時、あるところで大きな音が出てテンポが変わるから一生懸命振っていたのを、何かの加減で譜面をめくろうとして、振るのをうんと小さくした。そうしたら、オケがものすごく神妙な音になって、ぱーっと手についてきて「あっこれか…!」と思ったりする。60歳になっても、自分が好きになって始めた音楽の道でそう思えるっていいなと思うのです。人生捨てたもんじゃないなど。

——音楽家として、ご自身の中で変わってきたと思われるところは?

僕は、オーボエはある程度やったな、というくらいやったと思っています。クラシックだけでなく、ジャズもポップスも何でもやった。だけど、たとえ自分がさんざんやった曲でも、スコアを見ながらもう1度別の勉強をしてみるとまた全然違った見方ができて、それが楽しい。この間、ブラームスの交響曲第2番を振らせていただいたけど、もう「うわあ!なんていい曲なんでしょう!」と思った。ストラヴィンスキーの《火の鳥》も、本当によくできていると思う。



宮本文昭

演奏家って自分のパート譜で勉強するでしょ。だけど指揮の勉強をする時はスコアを全部見ますよね。こう見て、真ん中見て、この動機がここに出てきたなとか、いろんなこと考えて1ページずつやる。だからオーボエを吹く時よりもよっぽど時間がかかる。それに新米だし、小澤さんみたいに指揮の経験も多くないから、譜面がなくなるとおっかない。だけど頭の中には入っているから、振りながらここ(すぐ目の前)に素通しで譜面が出るんですよ。その向こうにメンバーがいる。それを追いながら、例えば「ここでもうすぐ、コントラバスのピッツィカートが来るな」というのが、だんだんわかってくる。そして自分のうちで、スコアを見ながらおさらいをする。メンバーがいるかのごとくサインをしながら、自分で歌う。だからこんなガラガラ声になる。それで声帯がひっくりかえったり枯れてくると、音程が全く外れたりする。それでも構わずやる。ここでボン、ボン、と合図するのを、ずっと体に覚えさせる。

そうやって自分なりに勉強しているので、とても非効率なかもしれない。でも終わった時にはすぐ頭に入っている。たしかに専門分野ではあるけれど、今までオーボエ1本じゃないですか。だけど、意外と覚えるんです。そういう自分を発見するのも嬉しいし、楽しいし、ワクワクする。

#### ——実際、「舞台の上」では？

演奏会をやっているうちに、オーケストラの皆さんと、どうやって一緒に音楽を共有しあうかというのも分かってきます。つまり指揮者とオケは共存共栄、音楽は一緒に作るもので、指揮者の勝手には全然ならない。

というのも指揮とぴったりの演奏というのは、人間には出来ないから。つまり演奏家それぞれ見る角度によって、認識の仕方は全く違う。メンバーはずっと譜面を見ていて、指揮者が動いているのは分かるけど、その時指揮者は「何がほしいか」というのは、一字一句分かるわけじゃないですからね。僕は、勉強している時は「完全独裁」で準備して、リハーサルに行った時に「共存共栄」に移行する。そうすると、この人どのくらい主張したいのかなとか、この人にこれくらいの自由を与えてみようかな、とかいろいろわかる。

僕はメンバーだった時、「吹かせてくれると嬉しい」という思いがよくあった。自分の世界観を

ぱーっと吹いた時に、指揮者が「どうぞ!」という感じで手を差し伸べてくれると、「いい指揮者だな」と思ったのですが、そういう瞬間って大事なんですよ。コミュニケーションがとれている。いつも「こっちについて来い」というのはあまり嬉しくない。そうすると「それでいいなら、表情も全部出してくれよな」と思って、四角四面のことしか吹かない。勿論本番になったら、自分の大切なところはアピールしなきゃいけないと思うんだけど、指揮にがんじがらめに縛られていたら、出せるものも普段の何割か減ってしまう。それだとすごく心残り。だからだいたいオケのメンバーというのは、指揮者のケチしかつけない(笑)。そんなわけで僕も「指揮者になろうと思わなかった」のです。

——さていよいよ10月には、かつてメンバーとして一緒に音楽を作ってきたMCOに、今度は指揮者として来ていただきます。今のお気持ちは？

たぶんみんなね、腕まくりして待っていると思いますよ。「さあ宮本やってみろ!」みたいな感じで(笑)。だって僕を好んで呼ぶはずがないじゃないですか!昨日まで指揮者のことをさんざん言っていたのが指揮しているという話を聞いて、「じゃあ宮本くんだったら振れるかもしれない」なんて、1ミリも考えてないと思いますよ!でも僕は行ったら完全に、羞恥心投げ打ってやるつもりです。

僕は、指揮者というのは「羞恥心をなくせるかどうか」だと思うんです。恥ずかしげもなくやるしかない。それは小澤さんを見ていていつもそう思った。「この人羞恥心ないなあ。全部捨ててるわ」と。生ですよね。でもそれがいいなと僕らも思っていた。だから僕も一切かっこつけない。かっこついたらわかるんですよ、メンバーは。それはやっちゃいけない。僕は「メンバーにやる気を失せさせるようなことは一切やらない」と思って今まで振ってきました。たとえダメだったとしても、最後は音楽家だから「こいつダメだけど、一生懸命だからやってやろう」と思う。だからそんな時は僕、「ごめんなさい、振りきれない」と言いますもん。小澤さんだっておっしゃる。「これできねえからさ、みんなやってくんねえ?」と。でもそれを見て「こいつできない」なんて思ったこと一度もない。つまり足りないところがあっ

たっていいんですよ、それ以上のものがあれば。

——「それ以上のもの」というのを、一言で言うとは何ですか？

良い音楽家であることでしょうね。メンバーもみんな言うし、僕もそう思う。みんなに共感してもらえるような、音楽の核になるようなものを持っていると、それが絶対に毛穴から出るんだろうなという気がします。若い指揮者を見ていて、僕がいつも物足りないと思っていたのは、頭の中で音楽を処理しているから。だから全然「共感」がない。でも「俺はこれを信じているんだ」というのが体の動きで見えてくると、「こいつのためにやってみよう」と思うのです。その雰囲気の中で「オーボエのソロ、これだったらどう?」と吹くと、指揮者はこちらを見なくてもこっと笑ったりして、「あっ喜んだ!じゃあこれでいいんだ」と思う。そういう「気のやりとり」をしている。そこが一番大事。

だから「信じる姿を見せる」ことですね。「僕はこう思っている」という態度が明確に見えていると、メンバーはその指揮者が感じているものを自分なりに想像して、「この色なら合うね」というのを出してくる。その時に、全然表情変えないでOKなのか、表情を変えてOKを出すのか、だめで「ん?」という表情をしたら、「お気に入りじゃないんだな」と思って次を出す。そんなふうに、肝胆相照らしながら意思疎通をして、リハーサルを進めて、本番ではお互いの共同作業でいい演奏をする。

全体の雰囲気については、指揮者が「この曲はこんなイメージです」というのを体現する。演奏家は、「それにあった色を出して助けてあげよう」と思う。「そのソロのイメージは、こういう運びだったらこれしかないでしょ」と、センスにまかされて出す。そういうメンバーが一人でも多くいて、ぴったりの色をぱっと出せるのがいいオーケストラ。最終的には、演奏家の方が「あの指揮者のあの世界の中に、僕らも一緒に生きることができて幸せだったな」と思えるような演奏ができれば最高ですね!

——第80回定期演奏会のプログラムについて、聴きどころを教えてください。

ハイドンは、ややもすると日本ではモーツァル



Gruppe Rosen (2008年水戸芸術館公演より)

トのかげに隠れてしまって、あまりシリアスにとらえられてないんですね。やたらに数は多く書いてあって。モーツァルトに似ているけど、モーツァルトほど天才の筆致というのではなく、堅実に作られたものという印象が強いけど、あの人、ひと筋縄ではいかない作曲家みたい。かえってモーツァルトの方がずっとストレート。これだと決めたらそのまま素直に行く。だけどハイドンの交響曲を聴いていると、なかなか皮肉屋でいたずら好きな人だなと思う。わざと何かを始めておいて、すっと終わらせたりする。「面白いだろ、これ」と言っている。そういう人なの、何か変わってる。

ショスタコーヴィチはとてもシリアスな作曲家。彼の弦楽四重奏曲は、歴史的にもそういうシリアスな背景があるので、非常に「残酷なの」と、それから「悲しみすぎて泣きすぎて、涙も枯れちゃった」という振れ幅の大きいものを表現したいと思っています。本当に、血が出るほどに残酷

な感じではある。虐げられて残酷という感じ。

だからこそ次にシューベルトを選んだ。その中でもすごく「幸せ」と思えるような、みんなでにっこり笑って聴けるようなものを最後にできればいいなと。飲み物でいうと炭酸飲料みたい、スキューとする曲を選んだ。ショスタコーヴィチの後に、シューベルト、しかも3番という、実に軽快な作品を。最初はいかめしく始まるけど、その後、た〜りた〜りた〜りら〜りらん、た〜ら〜と、ちょっと軽薄な感じになって、いかにも「高いところへ!」という感じになれる曲で終われたらいいなと思ったんです。あまりやらないでしょ? だけど「ぱっと変わりましたよ!」という感じで行くには3番がいいと思って、あえて選びました。

—— 最後にお客様へメッセージを。

僕は水戸でたくさんオーボエを吹いて、何度か恥をかかせていただいたことやびっくりさせた

こともありますが、いつも楽しい時間を過ごさせていただきました。そして今度は、おこがましくも指揮という立場でカムバックをさせていただく。皆さんにとっての一番の「得るもの」というのをあえて言わせていただくと、宮本を正面からしかご覧になったことのない方が、宮本の背中を見ることができるといのはやっぱり... 今後は男の背中で勝負かけられるかなと(笑)。今度宮本がかけるのは、指揮者としての価値をかけるのと、それからもう一つ、60の男の背中を見て、生き様を楽しんでください!

—— 演奏家と指揮者の両方を経験されている宮本さんならではの楽しいお話を、どうもありがとうございました!

(2010年8月5日 / 聞き手: 高巢)

## SELF

## PORTRAIT

茨城ゆかりの実力派歌手が  
勢揃い!

オペラの聴きどころ満載の  
ステージをお楽しみに!

■ 10/2(土)  
Gruppe Rosen  
(ぐるっぺ・ローゼン)  
〜続・オペラと出逢う日〜

Gruppe Rosen(ぐるっぺ・ローゼン)は茨城県にゆかりのある歌手を中心に結成された声楽グループです。メンバーのほとんどが水戸芸術館で毎年行われる「茨城の名手・名歌手たち」の出身者です。その後も私たちは水戸芸術館での市民オペラや様々な演奏会で、素晴らしい先生方にご指導いただき、聴衆の皆様へ暖かく育てていただきました。私たちが経験し体感した音楽の素晴らしさを、ふるさとの皆様への感謝の気持ちも

込め、また未来ある子供たちのために伝えていきたいと思っています。そして茨城の音楽文化の発展に貢献したいと思っています。

さて今回のプログラムは「続・オペラと出逢う日」と題しまして、前回(2008年6月22日)に引き続きオペラをご紹介します。アンサンブルを中心に構成いたしました。原語での演奏になりますが、前回同様わかりやすい解説でナビゲートいたします。

第1部は、モーツァルト(コシ・ファン・トゥッテ) 男声三重唱からスタートいたします。テノール、バリトン、バスそれぞれの声域の魅力と、恋人のことを歌った楽しい内容、モーツァルトの軽やかで美しい音楽をお楽しみください。I部の後半はフンパーディンク作曲(ヘンゼルとグレーテル)です。一幕一場からヘンゼルとグレーテルの楽しく愉快な二重唱、そして第三幕四場、魔女によりお菓子の姿になっていた子供たちが、ヘンゼルの呪文により魔法がとけた喜びと感謝を歌う場面からフィナーレまでを、水戸第二高等学校コーラス部有志の皆さんと共に送りいたします。第

II部は、ベッリーニ二作曲(カプレーティとモンテッキ) 第一幕からお送りいたします。ベッリーニ独特の憂愁と流麗な旋律美をお楽しみください。第二部後半はヴェルディ作曲(リゴレット) 第三幕です。女心の歌から四重唱、三重唱、そしてあまりにも悲しい結末の二重唱。登場人物たちの細やかな感情表現と音楽が見事に融合したヴェルディの素晴らしい世界をご堪能ください。

そして、このすべてのプログラムを伴奏していただくのは、水戸市出身のピアニスト小林由佳さんです。水戸芸術館での市民オペラや第九など、様々な演奏会でエレクトーン奏者としても活躍です。今回はエレクトーンによるオーケストラ伴奏での演奏もご紹介します。オペラは総合芸術。見て聴いて感じていただけたら嬉しいです。ぜひ会場で体感していただきたいと思います。

久保田尚子



アンサンブル奏



東京芸大同声会茨城支部(2009年ノバホール公演より)

日立で結成された木管アンサンブル「アンサンブル奏」が水戸芸術館に初登場します。

## ■ 10/24(日) アンサンブル奏 コンサート

「アンサンブル奏」は、ピアノ・フルート・オーボエ・クラリネット・ホルン・ファゴットの6つの楽器による木管アンサンブルグループです。「日立に木管アンサンブルの響きを!」という想いを持った日立市在住・出身のメンバーを中心に2008年に結成をし、昨年のデビューから日立市内での演奏活動をして参りました。2年目の今年、活動の場をさらに広げ、水戸芸術館にてコンサートを行えることに喜びを感じております。

木管アンサンブルの魅力は、まるで宝石箱のよ

うに、異なった音色や魅力を持った楽器が集まりひとつの音楽を作り上げる所にあると思います。楽器の組み合わせによってもその面白さは変化を見せますが、より多面的に木管アンサンブルを楽しんで頂こうと今回の演奏会では二重奏から六重奏まで全て楽器編成の異なる6曲でプログラムを構成致しました。一番コンパクトな編成のプーランク〈クラリネットとファゴットの為のソナタ〉ではクラリネットとファゴットそれぞれの特徴や魅力、技巧を、軽妙な音楽と合わせてダイレクトにお伝えできると思います。反対に一番大きな編成のラヴェル〈マ・メール・ロワ〉ではオリジナルであるピアノ連弾版のような繊細さから、オーケストラ版(ラヴェル自身による編曲)を彷彿とさせる重厚な響きまで、6つの楽器による幅の広い表現を愉しむことができます。その他、最もポピュラーな編成の木管五重奏やピアノとのトリオ・カルテット等、交わる楽器による変化、また私たち奏者自身の個性の融合による変化を、曲ごとに発見して楽しんで頂ければと思っ

ております。

演奏会の副題である～巴里の空の下で～の名の通り、曲目は木管アンサンブル作品の充実しているフランス近現代の作曲家に焦点を当てました。それぞれに個性を色濃く出しながらも、何れも色彩感に溢れ、喜怒哀楽様々な表情やウィットに富んだ作品たちです。その中に一人混じったイギリス人女流作曲家ドゥリングの素直な音楽は、周りを際立てつつ、ホッと息をつかせてくれます。また〈マ・メール・ロワ〉は声楽家・美濃部佑うごさんによる朗読付きです。音楽をよりぐっとお伽話の世界へと引き込んでくれるであろう言葉による表現を、私たちもとても楽しみにしています。

私たち「アンサンブル奏」らしい穏やかな一体感・ハーモニーと共に、皆様が憩いのひと時をお過ごしくださいますようお願いしております。

アンサンブル奏 石橋力

茨城の東京芸大《邦楽科》卒業生による演奏会

## ■ 10/31(日) 第36回東京芸大 同声会茨城支部 《邦楽》演奏会

明治に入ってから文明開化と共に多くの外国音楽が流入しました。その中でも特に西洋音楽は改良された多種の楽器や整った音楽理論、それらを踏まえて多くの作曲家が織り成す多彩な曲調および曲数を以って日本人の心を捉え、瞬く間に浸透していきました。

この流れとは反対に邦楽の地盤は徐々に低下し、町の中や家庭から和楽が聞こえるのは稀となり、年月を経て和楽器自体が外国の珍しい物を見られるような状況になってしまいました。

戦後暫く経ってから所謂洋楽系の邦人作曲家が和楽器を取り入れた作品を発表するなどして内外に紹介され、和楽器が徐々に世界の人々に知れ渡るようになりました。

最近では学校でも漸く少しずつ、習得とは言えないまでも、楽器の体験が可能となってきています。

そこで日本音楽の見直し機運に合せ、今年と同声会茨城支部では邦楽演奏会を企画致しました。

本流とも言うべき古典を中心に曲を揃えましたが、尺八では、この世界では珍しいジャズを演奏致します。

それでは出演者を紹介させていただきます。小林鈴勸は尺八を用いたジャズ演奏を得意としており、極めて数少ない尺八ジャズ奏者の一人です。また古典の「鹿の遠音」を横田鈴琥と共演します。

生田流箏曲の吉田美菜子は賢順記念全国箏曲コンクールで優勝するなど、多方面で活躍の気鋭の奏者です。

山田流箏曲の小林名与都は箏曲界の重鎮・鳥居

名美野師の高弟であり、古典を中心に舞台やFM放送等で活躍の実力派です。

本演奏会の「とり」を務めます謡曲の後田洋子は日立市をはじめとした文化活動に取り組み、演奏でも第33回同声会茨城支部演奏会等において好評を博した本格派です。

ご多用のおり恐縮に存じますが、皆様方のご来場を心よりお待ち申し上げます。

演奏会実行委員長 横田鈴琥

## 最近の公演から

JULY  
AUGUST



1



2



3



4



5

### 水戸室内管弦楽団第79回定期演奏会 (7月3日、4日)

5回目の共演となる準・メルクル氏を指揮に迎えた演奏会。プログラムは、R.シュトラウスの〈クーブランのクラヴサン曲による舞踏組曲〉とベートーヴェンの〈交響曲 第3番 “英雄”〉の2曲。メルクル氏はここ数年ベートーヴェンの交響曲をプログラムに入れているが、水戸でしか聴けないスリリングでエネルギー感が魅力のユニークな演奏が行われていると思う。アンコールはラヴェルの〈クーブランの墓〉から“リゴードン”。

7月2日には、堀原運動公園内の県立武道館にて「子どものための音楽会」を開催。水戸市内および近郊の小学校5年生およそ3,000名の児童が参加した。前半にR.シュトラウス作品の第2、3、5曲、楽器紹介のコーナーを挟んで、後半にベートーヴェン作品の第3、4楽章という構成。司会・進行役は工藤重典さん(フルート)と吉野直子さん(ハープ)。お二人の明るく澁刺としたトークが演奏会に花を添えた。さらに、7月3日の午前中には、音楽に興味のある学生さんをお招きして公開ゲネプロを実施した。《中村》「子どものための音楽会」のアンケートから●オーケストラを初めて聞いて、その迫力におどろきました。(浜田小:R.Y.さん) ●ベートーヴェンの作品がとっても好きでした。楽器紹介のコーナーでは、知らない楽器があったので、説明が聞けて良かったです。(三の丸小:H.T.さん)

定期演奏会のアンケートから●1曲目は室内楽の花束という印象でとても愉しめました。2曲目は交響曲の愉しみを堪能しました。オーボエとティンパニの方が特に印象的でした。(無記名の方) ●メルクルさんの指揮の公演は、プログラムも面白く、演奏解釈もユニークなので、いつも楽しみにしています。(東京都の方) ●CDであらかじめ聴いておいた

R.シュトラウスですが、MCOの演奏は比喩ものにならないくらい豊穣な響きを聴かせてくれて、さわやかに感動しました。(エロイカ)、あつい!! MCO & 準・メルクルの作り出す音楽のエネルギーに胸が熱くなりました。(吹田市:M.A.さん)

### 夏の夜のオルガン探検(8月22日)

パイプオルガンを自分で見て聴いてさわって、この楽器の魅力をとともに楽しもう!そんな思いから、今回は高校生対象に行われたパイプオルガン体験イベント。「幼児のためのオルガン見学会」でもおなじみのオルガニスト・浅井美紀さんが講師を務めました。内容は、楽器の仕組みについて話を聞いたり、実際に鍵盤にさわったり、オルガンの内部に入ってみるなど、様々な切り口からオルガンを楽しんでいただくというもの。普段なかなかできない体験とあって、特に鍵盤の前にすると皆さん興味津津でした!

最後には浅井さんが、メシヤンの〈主の降誕〉より“IX. 神はわれらのうちに”などを演奏。夜のエンターランスホールいっぱい響き渡るその音を聴いていただき、会場は充実した空気に包まれました。《高巢》アンケートから●とても珍しい体験をさせていただいて良かったです。私はパイプオルガンの音が大好きで、今回は自分で弾いて音色を聴けるということで参加しました。とてもきれいな音色でした!(無記名の方) ●オルガンの音や、空気を使って音を出すことは知っていたが、実際に弾いたり聴いたりしたことで、動いているところや、複雑な構造によって音色などを変えていることを体験できて、なるほどと思った。(無記名の方) ●ピアノとパイプオルガンの違いがよく分かり、楽しかったです。大学に行ったらぜひ副科オルガンをとってみたいです。(ひたちなか市:A.S.さん)

1~3.水戸室内管弦楽団第79回定期演奏会  
4~5.夏の夜のオルガン探検

## 今こそ、 ショスタコ!

Дмитрий  
Дмитриевич  
Шостакович

イタリア・オペラが好きである。ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ…。基本的に感情表現が直球勝負。だから、聴けばビンビン伝わってくる。難しく考える必要が(ほとんど)ない、このダイレクト感の気持ちよさ。音楽を聴く喜びは、やっぱりコレですよっ! Una voce poco fa~♪

そんなイタリア・オペラを愛する私にとって、20世紀ソ連の作曲家ドミトリー・ショスタコーヴィチ(1906~1975)の音楽は、正直言って、苦手である。

1936年、強烈な不協和音を使って密通と殺人を描いたオペラ《ムツェンスク郡のマクベス夫人》がスターリンの不興を買い、共産党機関紙から批判される。震えあがったショスタコーヴィチは(当時、一歩間違えたらどうなるかは、投獄の末流刑されたノーベル賞作家ソルジェニーツィンの例を見ればわかるだろう)、翌1937年、伝統的な4楽章構成に則った“わかりやすい”〈交響曲第5番〉を作曲して、名誉を回復する。これ以降、スターリン、フルシチョフ、ブレジネフと続くソビエトの社会主義体制下で、ショスタコーヴィチは厳しい抑圧に耐え、奇跡的に生き抜いた。表向きには「御用作曲家」の仮面をかぶりながら、当局の間人には聴きとられぬよう細心の注意を払って、その音楽の中に強烈な毒や皮肉をひそませる——そうやって何とか自己の存在を守りぬいたのだった。

そんな音楽が耳に“心地よい”はずがない。でも、この夏、ショスタコの弦楽四重奏曲をじっくり聴

き直してみ、思った。「これは聴かねばならぬ音楽だ!」と。

ファシズムや社会主義の弾圧が過去の話だと思ったら大間違い。21世紀になっても、少数意見や多様性を排除しようとする動きは世界中あちこちに見られる。日本の政治やマスコミにだって安心してはられない。それから、うまくいかないすべての原因を昨年「不景気」のせいにする風潮があるけれど、それがどういう悲劇を生むかは20世紀の歴史が実証済みだ。このような世の中すべてに警告を発してくれるのが、ショスタコの音楽なのだ。

10月のMCO第80回定期演奏会(指揮:宮本文昭)で演奏される〈室内交響曲 作品110a〉(原曲:弦楽四重奏曲第8番)を聴いてみよう。宮本さんが語る「血が出るほどに残酷な感じ」の音楽が、何を告発しているのかを!

《関根》

## information

- チケットに関するお問い合わせ  
…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000  
営業時間/9:30～18:00(月曜休館)
- 公演内容や企画に関するお問い合わせ  
…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118
- 【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

## ●ツイッター開設のお知らせ●

水戸芸術館音楽部門のスタッフによるツイッターを始めました。  
皆様のフォローをお待ちしております。  
[http://twitter.com/ConcertHall\\_ATM](http://twitter.com/ConcertHall_ATM)

## チケット・インフォメーション (9月25日(土)発売分)

- ◎茨城の名手・名歌手たち 第21回  
11/27(土)18:00開演 料金(全席自由): ¥1,500
- ◎中村真由美 ピアノ・リサイタル  
12/5(日)15:00開演  
料金(全席自由): 一般¥3,000、学生(大学生以下) ¥1,500
- ◎にほんのうたでむかえる水戸のクリスマス・プレゼント・コンサート2010  
12/23日(木・祝)17:00開演  
料金(全席指定)A席¥3,000 B席¥2,000

## これからの演奏会・残席情報

- …残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし  
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏  
補助…補助席
- ◎水戸室内管弦楽団  
第80回定期演奏会……………10/9(土)中央×、左右・裏○  
10(日)中央○、左右・裏○
- ◎平松英子(ソプラノ) & 野平一郎(ピアノ)  
シューマン歌曲の夕べ……………11/6(土)中央○、左右・裏○
- ◎ちょっとお昼にクラシック  
波多野睦美(メゾ・ソプラノ) & つのだたかし(リュート)  
香り高きイギリス・リュートソングの世界……………11/16(火)中央○、左右・裏○
- ◎新ダヴィッド同盟  
第1回定期演奏会……………12/22(水)中央×、左右・裏○
- ◎ぐるっぺ・ローゼン  
～続・オペラと出逢う日～……………10/2(土)自由席○
- ◎アンサンブル奏……………10/24(日)自由席○
- ◎第36回 東京芸術大学  
同声会茨城支部邦楽演奏会……………10/31(日)自由席○
- ◎井上 修 ピアノ・リサイタル……………11/21(日)自由席○
- ◎コール・ヴィステリー……………11/22(月)自由席○

※9/5(日)現在の状況です。

※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もごございますので、予めお問合せ下さい。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

- ぐるっぺ・ローゼン ～続・オペラと出逢う日～  
10/2(土)17:00開演  
料金(全席自由): 一般¥3,000 学生(大学生以下) ¥1,500
- アンサンブル奏  
10/24(日)14:00開演 料金(全席自由): 一般前売¥2,000(当日¥2,200)  
高校生以下前売¥1,000(当日¥1,100)
- 第36回 東京芸術大学同声会 茨城支部邦楽演奏会  
10/31(日)14:00開演 料金(全席自由): 一般¥2,500 学生 ¥1,500

## エントランスホール

- パイプオルガン プロムナード・コンサート  
10月: 3日(日)、16日(土)、23日(土)、30日(土)  
11月: 20日(土)  
開演時間: 12:00 / 13:30(2回公演)  
入場無料 ※演奏は各回20分程度です。

## ACM劇場

- 萬狂言水戸公演2010 『清水座頭』 『首引』  
10/11(月・祝)13:00開演  
料金(全席指定): S席 ¥4,000 A席 ¥3,000 B席 ¥2,000
- リージョナル・シアター2 『ドン・キホーテ』  
10/29(金)19:00開演 10/30(土)16:00開演  
10/31(日)13:00開演  
料金(全席指定): 一般 ¥2,000 学生 ¥1,500

## 現代美術センター

- 石元泰博写真展  
10/9(土)～11/7(日)9:30～18:00 ※入場は17:30まで  
休館日: 月曜日 ※10/11(月・祝)は開館、翌10/12(火)休館  
入場料: 一般800円、団体(20名以上)600円  
※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

## 茨城の主な10月の演奏会 ※有料公演のみ

- ◆茨城県民文化センター TEL/029(241)1166  
■スロヴァキア放送交響楽団 10/16(土)14:00開演
- ◆ギター文化館 TEL/0299(46)2457  
■吉川二郎 ギター・リサイタル 10/11(月・祝)15:00開演  
■Cuatro Flores 4本の花 ギター・コンサート  
10/17(日)15:00開演
- ◆つくばカピオホール TEL/029-856-7007  
■スタッフ・ベンダ・ビリリ 10/2(土)19:00開演
- ◆ノバホール TEL/029(852)5881  
■筑波大学管弦楽団第68回定期演奏会  
10/8(金)19:00開演  
■筑波研究学園都市吹奏楽団第24回定期演奏会  
10/10(日)14:00開演  
■VIOLA DA GAMBA & THEORBO DUO CONCERT  
品川聖 & 今村泰典デュオ・コンサート 10/14(木) 19:00開演  
■ヴォルガング・シュルツ(FI) & 佐藤美香(Pf) デュオ・リサイタル  
10/24(日)15:00開演  
■シュルツ親子(FI) デュオ・リサイタル 10/26(火)19:00開演  
■シュルツ親子(FI) & 東京ハルモニア室内オーケストラ  
10/28(木)19:00開演

## 水戸芸術館の主な10月のスケジュール

### コンサートホールATM

- 水戸室内管弦楽団 第80回定期演奏会  
10/9(土)18:30開演、10/10(日)14:00開演  
料金(全席指定): S席 ¥6,000 A席 ¥5,000 B席 ¥4,000

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] 2010年9月発行 第151号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順): 伊東慶子 大金絢子 関根哲也 高巢真樹 中村晃

DTP/村田征司[株式会社イセブ]

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は…  
深まる秋に2人の女性歌手を聴く。